

科 目 名	理系のための基礎英語 I				
配 当 学 年	1年	必修・選択	選択必修	CAP制	対象
授 業 の 種 類	講義	単位数	2 単位	授業回数	15
授 業 担 当 者	Randy L.Evans		単位認定責任者	EVANS RANDY LYNN	
実務経験の有無					
実務経験のある教員名および授業の関連内容					
授業科目の概要	<p>Students will learn general vocabulary used in basic mathematics. This vocabulary is learned by American children in school, from first grade to early middle school. Course content focuses on reading mathematic notations, and listening. This class is held in English.</p> <p>基本的な数学の単語を学ぶ。この単語はアメリカ人の子供たちが小学1年生から中学校までに学校で学ぶ単語です。この科目では、数学式の英語でのリーディングとリスニングにフォーカスします。全て英語で行います。</p>				
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 数学関係の英単語を分かることができる。</li> <li>2. 数学式を英語で読めることができる。</li> <li>3. 英語を聞いて式を書くことができる。</li> <li>4. 簡単な文章を読むことができる。</li> <li>5. 平易な英文を書くことができる。</li> </ol>				
学修成果評価項目 (%) および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	80%	定期試験		
	専門知識	10%	定期試験		
	倫理観	%			
	主体性	%			
	論理性	%			
	国際性	%			
	協調性	10%	ワークシート		
	創造力	%			
	責任感	%			
授業の展開					
1.	Placement Test プレースメントテスト				
2.	"Numbers" 一般の数字について				
3.	Addition 足し算について				
4.	Subtraction 引き算について				
5.	Multiplication 掛け算について				
6.	Division 割り算について				
7.	Fractions 分数について				
8.	Decimals & Percents 小数とパーセント				
9.	Negative Numbers & Inequalities 負数と不等式				
10.	Exponents & Roots 指数とルート				
11.	Geometry 1: Lines & Angles 幾何学1:直線と角度				

12.	Geometry 2: Polygons, Circles and Solids 幾何学2: 多角形、円、立体				
13.	Using Data テーブルを使ってデータを表す				
14.	Review レビュー				
15.	Review レビュー				
授 業 外 学 修 に つ い て	Every lesson has a corresponding eLearning lesson. The eLearning lessons are required, but each student may choose to do them after or before the lectures. 各レッスンにeLearning教材がついている。eLearningの課題課題は必須。学生は講義の前か後のどちらかで取り組まなければならない。				
教 科 書	適宜プリントを配付・使用する				
参 考 文 献	なし				
試 験 等 の 実 施	定期試験	その他の テスト	課題・ レポート	発表・プレゼン テーション	取組状況等
	○	○	×	×	○
成績評価の割合	50%	40%	0%	0%	10%
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69点~60点)、不可(59点~0点)				
試験等の実施、 成績評価の基準に 関する補足事項					

(理系のための基礎英語 I)

科 目 名	教養英語 I				
配 当 学 年	1年	必修・選択	選択必修	CAP制	対象
授 業 の 種 類	講義	単位数	2 単位	授業回数	15
授 業 担 当 者	磯部 靖世		単位認定責任者	磯部 靖世	
実務経験の有無					
実務経験のある教員名および授業の関連内容					
授業科目の概要	<p>「教養英語」では、総合的に英語能力(speaking, listening, reading and writing skills)を強化することを目的とし、それらの能力向上のために幅広いテーマを用いた教材を扱い、読んだもの、聞いたもの、動画で見たものを自分のことばでアウトプットする。</p> <p>春学期の「教養英語I」では、特にスピーキングにフォーカスをする。英語のアウトプットには一定数の語彙が必要だが、本授業で扱う語彙は英語で日常会話をする際によく用いられる頻出度の高い語彙である。それらの語彙をスピーキングで実用的に使用することによって、定着を目指す。また授業内の教材のテーマを個人レベルとしても考え、英語で意見や経験を話す練習をする。理解しやすいアウトプットに必要な発音の練習も授業内で取り入れる。</p> <p>本授業では、秋学期の「教養英語II」で海外の大学の学生とオンラインで交流する際の準備として、できるだけ多く口頭でアウトプットをし、コミュニケーション能力の向上を目指す。本授業のHWや課題の多くは、スピーキングに関わるものであるため、音声ファイルや動画の提出となる。一部の授業はオンラインやオンデマンドで実施されることもある。</p>				
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. カタカナ英語ではなく、英語らしい発音を意識して、発話することができる。</li> <li>2. 本授業で学習する語彙やすでに学習した語彙を実用的に用いて発話することができる。</li> <li>3. 語彙学習では、単語だけではなく、一緒に使用される前置詞も合わせて学習し、実用的に使うことができる。</li> <li>4. 音声ファイルで聞いたものや動画で見たものの内容について、クリティカルに考え、クラスメイトとディスカッションすることができる。</li> <li>5. 授業で取り扱うテーマについて、自分の意見を英語で書いたり(180 語程度)、話したりすることができる(1分半程度)。</li> </ol>				
学修成果評価項目(%)および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	30%	その他テスト、レポート等、プレゼンテーション		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	10%	レポート等、プレゼンテーション		
	論理性	20%	その他テスト、プレゼンテーション		
	国際性	10%	その他テスト、レポート等		
	協調性	10%	取組状況等		
	創造力	10%	レポート等、取組状況等		
	責任感	10%	レポート等、取組状況等		
授業の展開					
1.	授業オリエンテーション、日本語と英語の違い				
2.	Unit 1 (I AM)*指定教科書には掲載されていないため、ポータルサイトにアップ				
3.	Unit 1の続き				

4.	Unit 1のクイズとUnit 5 Take a risk (Lesson A: Adventure of the Year)										
5.	Unit 5の続き (Lesson B: A Different kind of Risk)										
6.	Unit 5のクイズとUnit 6 Do your part (Lesson A: Everyone's problem)										
7.	Unit 6の続き(Lesson B: A Walk in the Trees)										
8.	Unit 6のクイズとPreparation for Midterm Presentation										
9.	Midterm Presentation										
10.	Unit 7 Find Your Treasure (Lesson A: Geocaching Fun!)										
11.	Unit 7の続き (Lesson B: Dinosaur Detective)										
12.	Unit 7のクイズとUnit 8 Innovative Ideas (Lesson AL The Scientific Method)										
13.	Unit 8の続き (Lesson B: Ending Blindness)										
14.	Unit 8のクイズとPreparation for Final Presentation										
15.	Final Presentation										
授業外学修について	授業外の予習・復習として、以下の内容取り組むこと。 (予習 90分) ・教科書の内容や動画に事前に目を通し、新出語彙・イディオムの意味・用法を予習し、事前に提示される教科書の設問に答えておく。 (復習 60分) ・テキストの本文の内容、語彙・イディオムを中心に復習をする(クイズへの準備)。 ・HWとして授業で行うディスカッションや教科書の内容をスピーキングのHWとして課すことがある。その際、授業内で実施したスピーキングのワークの内容をまとめて、話せるように準備をすること。										
教科書	Pathways Listening, Speaking, and Critical Thinking Foundations, Split Foundation B with Spark Access + e-Book (1 year access), Cynthia Fettig (著)、National Geographic Learning										
参考文献	特になし										
試験等の実施	<table border="1"> <thead> <tr><th>定期試験</th><th>その他のテスト</th><th>課題・レポート</th><th>発表・プレゼンテーション</th><th>取組状況等</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>x</td><td>○</td><td>○</td><td>x</td><td>○</td></tr> </tbody> </table>	定期試験	その他のテスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	取組状況等	x	○	○	x	○
定期試験	その他のテスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	取組状況等							
x	○	○	x	○							
成績評価の割合	<table border="1"> <tbody> <tr><td>0%</td><td>40%</td><td>40%</td><td>0%</td><td>20%</td></tr> </tbody> </table>	0%	40%	40%	0%	20%					
0%	40%	40%	0%	20%							
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69点～60点)、不可(59点～0点)										
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への出席回数が3分の2未満の場合には不合格となる。また、授業中の居眠りやスマホいじりなどは「欠席扱い」となる。</li> <li>・課題は提出期限を過ぎたものやAIや翻訳ツールを使った課題は評価対象外となる(場合によっては、本授業の成績が「不合格」となることもある)。</li> <li>・他の学生の課題や文献などをコピーをした場合は「不合格」となる。</li> <li>・授業の進度や内容などは、状況や履修者のレベルにより変更の可能性がある。</li> <li>・本授業での定期試験は筆記試験ではなく、レポートやプレゼンテーション・スピーキングとする。詳細は授業内で説明をする。ただし、授業内の予習復習、課題でAIの使用が疑われた場合や課題と授業内のワークの差があまりにも大きい場合は、定期試験(持込不可)を実施する。その際、シラバスに記載されている成績評価の割合なども変更となることがある。</li> </ul>										

科目名	英語基礎 I				
配当学年	1年	必修・選択	選択必修	CAP制	対象
授業の種類	講義	単位数	2単位	授業回数	15
授業担当者	小川 正浩		単位認定責任者	小川 正浩	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容					
授業科目の概要	この授業では、英語の基礎力を身につけることに主眼を置いている。これは、大学においてより高度な英語力を身につけ、仕事に使えるような実践的な英語運用能力を修得するためには、まず「土台」を堅固なものにしなければならないからである。具体的には、演習問題、TOEIC Bridge(文法・語彙・音声)の教材を用いながら、総合的な英語運用能力の修得のための基礎となる・語彙力、基礎文法力・構文力、読解力、聴解力を身につけることを目指す。特に授業においては、英文解釈の演習問題を通して英文構造の分析と把握に努めていく。				
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業を通して、英文法の知識を再編して構文を論理的にとらえる力とともに英文内容を正確につかむための基礎力を養うことができる。</li> <li>2 授業中に課される演習問題を通して、上記1の基礎力の定着を図ることができる。</li> <li>3 課題として使用される TOEIC Bridge の練習問題を解くことで日常生活に関する場面で使われる基本表現の習得、語彙力の強化、そしてリスニング力の向上を図ることができる。</li> <li>4 TOEIC の前段階である TOEIC Bridge の学習を通して TOEIC でも役立つ基礎的な英語力と知識を身につけることができる。</li> <li>5 多読によって簡単な物語や身近なことに関する英文を和訳せずに早く読むことができる(直読直解)。</li> </ol>				
学修成果評価項目(%)および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	70%	期末テスト、小テスト		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	20%	課題提出(テキストの練習問題・多読)		
	論理性	10%	授業中の演習問題(英文解釈)		
	国際性	%			
	協調性	%			
	創造力	%			
	責任感	%			
授業の展開					
1.	ガイダンス(授業の進め方など)				
2.	基礎学力確認テスト(英検準2級準拠問題)、多読シート・テキスト課題提出				
3.	演習問題①: 名詞句、多読シート・テキスト課題提出、小テスト				
4.	演習問題②: 名詞節、多読シート・テキスト課題提出、小テスト				
5.	演習問題③: 形容詞句・節、多読シート・テキスト課題提出、小テスト				
6.	演習問題④: 形容詞節・副詞句、多読シート・テキスト課題提出、小テスト				
7.	演習問題⑤: 副詞句・節、多読シート・テキスト課題提出、小テスト				

8.	演習問題⑥: 副詞節、多読シート・テキスト課題提出、小テスト				
9.	演習問題⑦: 動詞相当語句、多読シート・テキスト課題提出、小テスト				
10.	演習問題⑧: 名詞構文、多読シート・テキスト課題出、小テスト				
11.	演習問題⑨: 実践問題、多読シート・テキスト課題提出、小テスト				
12.	演習問題⑩: 実践問題、多読シート・テキスト課題提出、小テスト				
13.	演習問題⑪: 実践問題、多読シート・テキスト課題提出、小テスト				
14.	まとめ①: 英文解釈テスト				
15.	まとめ②: TOEIC Bridgeテスト				
授 業 外 学 修 に つ い て	<p>授業外学習は、以下の項目に毎週少なくとも4時間程度あてることが望ましい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 テキスト課題(1週間に2Unit: 各パートの演習問題を解いて提出)</li> <li>2 多読の課題(1週間に2500語以上読んで多読シートを提出)</li> <li>3 日常基本単語・熟語1000(1週間に2unit: 各問題を解いて提出)</li> </ol>				
教 科 書	<p>1 アリソン・キツマン他『Practical TOEIC Bridge L&amp; R Tests』(南雲堂)</p> <p>授業における演習問題についてはプリントを配布する。</p>				
参 考 文 献	特になし。				
試 験 等 の 実 施	定期試験	その他の テスト	課題・ レポート	発表・プレゼン テーション	取組状況等
	○	○	○	×	○
成績評価の割合	60%	10%	20%	0%	10%
成績評価の基準	<p>本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。</p> <p>秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69点～60点)、不可(59点～0点)</p>				
試験等の実施、 成績評価の基準に 関する補足事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価や授業の進め方、辞書の携帯等に関しては、ガイダンス時に詳細に説明するので、履修希望者は必ず出席すること。</li> <li>・授業は、「対面授業」のスタイルで行う。また、実際の授業にあたって上記の授業内容に変更が生じる場合があるかもしれないことを予め了承のこと。変更が生じる場合は、ガイダンス時、または授業中に連絡する。</li> </ul>				

(英語基礎 I)

科 目 名	理系のための基礎英語Ⅱ				
配 当 学 年	1年	必修・選択	選択必修	CAP制	対象
授 業 の 種 類	講義	単位数	2単位	授業回数	15
授 業 担 当 者	Randy L.Evans		単位認定責任者	EVANS RANDY LYNN	
実務経験の有無					
実務経験のある教員名および授業の関連内容					
授業科目の概要	<p>Students will learn basic vocabulary used in the physical sciences, focusing on waves and light. This vocabulary is learned by American children in middle school. Course content focuses on completing science-based tasks in English.</p> <p>基本的な理科の単語を学ぶ。この単語はアメリカ人の子供たちが中学校で学ぶ単語です。この科目は波と光にフォーカスします。</p>				
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理科関係の英単語を分かることができる。</li> <li>2. 英語で指示聞いてタスクをすることができる。</li> <li>3. 理科的な結果を英語で書くことができる。</li> <li>4. 簡単な文章を読むことができる。</li> <li>5. 平易な英文を書くことができる。</li> </ol>				
学修成果評価項目(%)および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	50%	定期試験		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	%			
	論理性	%			
	国際性	%			
	協調性	50%	ワークシート		
	創造力	%			
	責任感	%			
授業の展開					
1.	Introduction イン트로ダクション				
2.	Principles of Physical Science 基本的な理科単語				
3.	Mechanical Waves -- Kinds of Waves 力学的な波 -- 波の種類				
4.	Parts of a Wave 波の要素				
5.	Reflection & Diffraction 反射と回折				
6.	Electromagnetic Waves 電磁波				
7.	Visible Spectrum 可視スペクトル				
8.	Transmission 伝搬				
9.	Reflection of Light 光の反射				
10.	Color Absorption 光の吸収				
11.	Scattering 散乱				
12.	Convex & Concave Mirrors 凸面鏡と凹面鏡				

13.	Refraction 屈折				
14.	Review レビュー				
15.	Review レビュー				
授 業 外 学 修 に つ い て	Every lesson has a corresponding eLearning lesson. The eLearning lessons are required, but each student may choose to do them after or before the lectures. 各レッスンにeLearning教材がついている。eLearningの課題課題は必須。学生は講義の前か後のどちらかで取り組まなければならない。				
教 科 書	適宜プリントを配付・使用する				
参 考 文 献	なし				
試 験 等 の 実 施	定期試験	その他の テスト	課題・ レポート	発表・プレゼン テーション	取組状況等
	○	○	×	×	○
成績評価の割合	50%	40%	0%	0%	10%
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69点～60点)、不可(59点～0点)				
試験等の実施、 成績評価の基準に 関する補足事項					

(理系のための基礎英語Ⅱ)

科 目 名	教養英語Ⅱ				
配 当 学 年	1年	必修・選択	選択必修	CAP制	対象
授 業 の 種 類	講義	単位数	2単位	授業回数	15
授 業 担 当 者	磯部 靖世		単位認定責任者	磯部 靖世	
実務経験の有無					
実務経験のある教員名および授業の関連内容					
授業科目の概要	<p>本授業は、幅広いテーマのリスニング教材やリーディングパッセージの読解、動画の視聴を通じて、表現や語彙の学習を行い、聞いたものや読んだもの、見たものを自分のことばでアウトプットすることに重点をおく。</p> <p>「教養英語I」はスピーキングによるアウトプットにフォーカスを置いたが、「教養英語II」では、スピーキングに加え、ライティングのスキルにもフォーカスを置き、ロジカルなライティングができるスキルの向上を目指す。</p> <p>また、今後、上の学年へ進学しても継続的に語学学習をするために、本授業ではセルフスタディー（自律学習）を1学期を通して実施し、その過程や成果を授業の成績へ反映する。タイミングが合えば、海外の大学と交流を持ち、英語を実用的に用いて、その能力の向上を目指す。なお、一部の授業はオンラインやオンデマンドで実施されることもある。</p>				
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語のパラグラフの書き方を理解し、理論的な topic sentence と concluding sentence を書くことができる。</li> <li>2. 授業で取り扱うテーマの内容について、自分のことばでまとめることができる(サマリー)。</li> <li>3. 伝わりやすい発音で英語を発話することができる。</li> <li>4. 自分で学習目的をたて、それを達成するために学習計画や学習内容を管理し、自分の学習を客観的に振り返りながら、自律学習ができる。</li> <li>5. 理論的で読み手が理解しやすいアカデミックエッセイを書くことができる。</li> </ol>				
学修成果評価項目(%)および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	30%	その他テスト、レポート等		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	20%	レポート等		
	論理性	10%	その他テスト		
	国際性	10%	レポート等、取組状況等		
	協調性	10%	取組状況等		
	創造力	10%	レポート等、取組状況等		
	責任感	10%	レポート等、取組状況等		
授業の展開					
1.	授業オリエンテーション、日英の違いについて(春学期のレビュー)				
2.	Unit 1 Where we live 語彙とスピーキング				
3.	Unit 1 リーディングとサマリーのピアレビュー、リスニング				
4.	Unit 1 ライティングとTED Talk				
5.	Unit 2 The mind's eye 語彙とスピーキング				

6.	Unit 2 リーディングとサマリーのピアレビュー、リスニング				
7.	Unit 2 ライティングとTED Talk				
8.	Self-studyのシェア1とPreparartion for midterm essay				
9.	Unit 3 Changing Planet 語彙とスピーキング				
10.	Unit 3 リーディングとサマリーのピアレビュー、リスニング				
11.	Unit 3 ライティングとTED Talk				
12.	Unit 4 The Good life 語彙とスピーキング				
13.	Unit 4 リーディングとサマリーのピアレビュー、リスニング				
14.	Unit 4 ライティングとTED Talk				
15.	Self-studyのシェア2とPreparartion for final essay				
授業外学修について	<p>授業外の予習・復習として、以下の内容取り組むこと。(予習 60分、復習40分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の内容に事前に目を通し、新出語彙・イディオムの意味・用法を予習し、事前に提示される教科書の設問に答えておく。</li> <li>・テキストの本文の内容、語彙・イディオムを中心に復習をする。</li> <li>・授業の内容を踏まえ、教科書の読み物について自分の考えをまとめておく。</li> <li>・上記の予習・復習に加えて、自律学習(セルフスタディー)も各自実施する(セルフスタディーの時間は予習時間に含めない)。</li> </ul>				
教科書	World English 3 (Third edition) Combo Split 3A with Spark Access + e-Book (1 year access), Christien Lee (Cengage Learning)				
参考文献	特になし				
試験等の実施	定期試験	その他のテスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	取組状況等
	×	○	○	×	○
成績評価の割合	0%	40%	40%	0%	20%
成績評価の基準	<p>本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。</p> <p>秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69点～60点)、不可(59点～0点)</p>				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への出席回数が3分の2未満の場合には不合格となる。また、授業中の居眠りやスマホいじりなどは「欠席扱い」となる。</li> <li>・課題は提出期限を過ぎたものやAIツールや翻訳ツールを使った課題は評価対象外となる(場合によっては、本授業の成績が「不合格」となることもある)。</li> <li>・他の学生の課題や文献などをコピーをした場合は「不合格」となる。</li> <li>・授業の進度や内容などは、状況や履修者のレベルにより変更の可能性がある。</li> <li>・本授業での定期試験は筆記試験ではなく、レポートやプレゼンテーション・スピーキングとする。詳細は授業内で説明をする。</li> </ul>				

(教養英語Ⅱ)

科 目 名	英語基礎Ⅱ				
配 当 学 年	1年	必修・選択	選択必修	CAP制	対象
授 業 の 種 類	講義	単位数	2単位	授業回数	15
授 業 担 当 者	小川 正浩		単位認定責任者	小川 正浩	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容					
授業科目の概要	この授業では「英語基礎Ⅰ」に引き続き、英語の基礎力を身につけることに主眼を置く。春学期で取り組んだTOEIC Bridgeや英文解釈のインプット中心のトレーニングをここではTOEICのテキストを使ってさらに深めていき、英語基礎力のさらなる向上を図っていく。				
授業科目の到達目標	<p>1 テキストは TOEIC Bridge の問題形式から TOEIC の問題形式へと段階的に配置されていて、各 Unit にはリスニング・リーディングの全パートの問題が組み込まれているため両テストの問題スタイルに慣れると共に繰り返しそれらの問題を解くことで TOEIC に必要な基礎力を身につけることができる。</p> <p>2 リスニングとリーディングの問題を解く前に語彙問題を行うことで重要語句を理解し、語彙力の増強を図ることができる(テキスト巻末に重要語句一覧が各 Unit ごとに載せてあるので語彙リストとして活用できる)。</p> <p>3 各 Unit にはリーディング問題の前に文法説明が設けられており、問題を解く上での必要最小限の重要な文法知識を得ることができる。</p> <p>4 実践問題形式では、特にリーディングセクションの3つのパートのそれぞれに一定の時間を設定してその時間内に各問題を解く実践的な練習を行うことで、制限時間内に全問題が解けるような身体感覚を身につけることができる。</p> <p>5 多読によって簡単な物語や身近なことに関する英文を和訳せずに早く読むことができる(直読直解)。</p>				
学修成果評価項目(%)および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	80%	テスト、小テスト、実践問題		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	20%	課題提出(テキストの練習問題、多読)		
	論理性	%			
	国際性	%			
	協調性	%			
	創造力	%			
	責任感	%			
授業の展開					
1.	ガイダンス(授業の進め方など)				
2.	基礎学力確認テスト(英検2級準拠問題)、課題提出(Unit 1 & 2、多読シート)				
3.	Unit 1 & 2の解説、課題提出(Unit 3 & 4、多読シート)、速読小テスト				
4.	Unit 3 & 4の解説、課題提出(Unit 5 & 6、多読シート)、速読小テスト				
5.	Unit 5 & 6の解説、課題提出(Unit 7 & 8、多読シート)、速読小テスト				

6.	Unit 7 & 8の解説、課題提出 (Unit 9 & 10、多読シート)、速読小テスト				
7.	Unit 9 & 10 の解説、課題提出 (Unit 11 & 12、多読シート)、速読小テスト				
8.	Unit 11 & 12の解説、課題提出 (Unit 13 & 14、多読シート)、速読小テスト				
9.	Unit 13 & 14の解説、課題提出 (多読シート)、速読小テスト				
10.	実践問題:リスニング全パート				
11.	実践問題:リーディング (Part 5&6)				
12.	実践問題:リーディング (Part 7)				
13.	実践問題の解説				
14.	まとめ:リスニングセクション				
15.	まとめ:リーディングセクション				
授業外学習について	授業外学習は、以下の項目に毎週少なくとも4時間程度あてることが望ましい。 1 テキストの練習問題 (1週間に2Units) 2 多読の課題 (1週間に2500語以上読む) 3 実践問題の復習				
教科書	林姿穂・西田晴美・ブライアン・コヴァート『新形式対応ブリッジから始める TOEICL&R テスト』 (朝日出版社)				
参考文献	特になし。				
試験等の実施	定期試験	その他のテスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	取組状況等
	○	○	○	×	○
成績評価の割合	60%	10%	20%	0%	10%
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀 (100~90点)、優 (89~80点)、良 (79~70点)、可 (69点~60点)、不可 (59点~0点)				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価や授業の進め方、辞書の携帯等に関してはガイダンス時に詳細に説明するので、履修希望者は必ず出席すること。</li> <li>・授業は、「対面授業」のスタイルで行う。実際の授業にあたって上記の授業内容に変更が生じる場合があるかもしれないことを予め了承のこと。変更が生じる場合は、ガイダンス時または授業中に連絡する。</li> </ul>				

(英語基礎Ⅱ)

科 目 名	アメリカ事情 I				
配 当 学 年	2年	必修・選択	選択必修	CAP制	対象
授 業 の 種 類	講義	単位数	2 単位	授業回数	15
授 業 担 当 者	Randy L.Evans		単位認定責任者	EVANS RANDY LYNN	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容					
授業科目の概要	<p>THIS IS AN ALL ENGLISH CLASS. Students are expected to speak to me, and to each other, ONLY in English during class.</p> <p>Class content will consist a number of English "Modules" concerning a variety of topics.</p> <p>ALL students will be expected to SPEAK in English, READ English, WATCH video in English, LISTEN to English music, ROLE-PLAY in English, and SING in English!!</p>				
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Students will be able to use new vocabulary.</li> <li>2. Students will be able to read English passages.</li> <li>3. Students will be able to understand spoken English.</li> <li>4. Students will be able to understand US culture.</li> <li>5. Students will be able to discuss a variety of topics.</li> </ol>				
学修成果評価項目 (%) および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	60%	定期試験、小テスト(クイズ)		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	%			
	論理性	%			
	国際性	20%	ワークシート、小テスト(クイズ)		
	協調性	20%	ワークシート		
	創造力	%			
	責任感	%			
授業の展開					
1.	Course Introduction				
2.	Reading Passage				
3.	Reading Passage & Quiz				
4.	Reading Passage & Quiz				
5.	Reading Passage & Quiz				
6.	Reading Passage & Quiz				
7.	Reading Passage & Quiz				
8.	Listening & Video				
9.	Reading Passage & Quiz				
10.	Listening & Video				
11.	Reading Passage & Quiz				
12.	Listening & Video				

13.	Reading Passage & Quiz				
14.	Listening Quiz				
15.	Reading Quiz				
授 業 外 学 修 に つ い て	Students will receive various handouts that should be perused before lecture. Particularly the reading passages should be read before coming to lecture. 学生がいろいろなプリントをもらいます。このプリントを講座前にみてください。 特に読書のプリントを読んでください。				
教 科 書	Handouts				
参 考 文 献	使用しない				
試 験 等 の 実 施	定期試験	その他の テスト	課題・ レポート	発表・プレゼン テーション	取組状況等
	○	○	×	×	×
成績評価の割合	50%	50%	0%	0%	0%
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69点～60点)、不可(59点～0点)				
試験等の実施、 成績評価の基準に 関する補足事項					

(アメリカ事情 I)

科目名	TOEIC I				
配当学年	2年	必修・選択	選択必修	CAP制	対象
授業の種類	講義	単位数	2単位	授業回数	15
授業担当者	小川 正浩		単位認定責任者	小川 正浩	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容					
授業科目の概要	<p>ここでは、TOEICのスコア獲得600点を目標に試験対策に特化した授業を展開していく。具体的には、テキスト課題とその解説、そして実戦形式に近い形でリスニングセクションとリーディングセクションの問題を解いていく。特に、リーディング問題は、制限時間内に全問題を解くことはかなり難しいので、パートごとに時間を設定して問題を解く練習を重ねることで、時間内に全問題がとけるような身体感覚を養っていく。</p>				
授業科目の到達目標	<p>1 授業で用いる TOEIC テキストにはすべての Unit にリスニング・リーディングの各パートの問題がコンパクトに取り込まれているので、それらの問題を解くことで TOEIC の問題形式に慣れることができる。</p> <p>2 また上記のテキストには、各パートを解く上で知っておくべき最重要ボキャブラリーが事前に載っているので、言い換えを多用する TOEIC テストに対応するための同意語や反意語も一緒に学習してそれらを身につけることができる。</p> <p>3 テキストの各 Unit の問題形式を頻出のボキャブラリーを学習した上で繰り返し取り組むことで実践的な対策トレーニングを効果的に行うことができる。</p> <p>4 実践形式問題では、特にリーディングセクションの 3 つのパートのそれぞれに一定の時間を設定して、その時間内に各問題を解く実践的な練習を重ねることで、制限時間内に全問題が解けるような身体感覚を身につけることができる。</p> <p>5 多読によって、英語の物語や説明文を和訳せずに早く読むことができる(直読直解)。</p>				
学修成果評価項目(%)および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	70%	テスト、小テスト		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	30%	課題(テキストの練習問題、多読)、実戦形式問題の復習		
	論理性	%			
	国際性	%			
	協調性	%			
	創造力	%			
	責任感	%			
授業の展開					
1.	ガイダンス(授業の進め方や評価の仕方など)				
2.	Warming up: TOEIC Bridgeの問題を解く、課題提出(テキストUnit1-3、多読)				
3.	テキスト:Unit1-3の解説、小テスト、課題提出(テキストUnit4-6、多読)				
4.	テキスト:Unit4-6の解説、小テスト、課題提出(テキストUnit7-9、多読)				
5.	テキスト:Unit7-9の解説、小テスト、課題提出(テキストUnit10-12、多読)				

6.	テキスト:Unit10-12の解説、小テスト、課題提出(多読)				
7.	実戦形式①:Listening(全パート)、課題提出(多読)				
8.	実戦形式①:Reading ( Part 5&6)、課題提出(多読)				
9.	実戦形式①:Reading (Part 7)、課題提出(多読)				
10.	実戦形式②:Listening(全パート)、課題提出(多読)				
11.	実戦形式②:Reading ( Part 5&6)、課題提出(多読)				
12.	実戦形式②:Reading ( Part 7)、課題提出(多読)				
13.	実戦形式③:ハーフテスト、課題提出(多読)				
14.	まとめ:Listening Part				
15.	まとめ:Reading Part				
授 業 外 学 修 に つ い て	授業外の学習として、以下の項目に4時間以上は取り組むこと。 1 授業内で行う実践問題の復習 2 テキストの演習問題(1週間に3Units) 3 多読(1週間に3000語以上)				
教 科 書	古家聡・藤岡美香子他『TOEIC L&R Test ヴォキャブラリー徹底演習—全パート対応—』(三修社)				
参 考 文 献	特になし				
試 験 等 の 実 施	定期試験	その他の テスト	課題・ レポート	発表・プレゼン テーション	取組状況等
	○	×	○	×	○
成績評価の割合	60%	10%	20%	0%	10%
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69点~60点)、不可(59点~0点)				
試験等の実施、 成績評価の基準に 関する補足事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価(検定試験の性格上通常の評価とは異なる)や授業の進め方、辞書の携帯等に関しては、ガイダンス時に詳細に説明するので、履修希望者は必ず出席すること。</li> <li>・授業は、「対面授業」のスタイルで行う。また、実際の授業にあたって上記の授業内容に変更が生じる場合があるかもしれないことを予め了承のこと。変更が生じる場合は、ガイダンス時、または授業中に連絡する。</li> <li>・授業の定員は、第1希望者のみ30名とする。希望調査で定員を超えた場合は、抽選によって受講者を決定することを予め了承のこと。</li> </ul>				

(TOEIC I)

科 目 名	英語と文化 I				
配 当 学 年	2年	必修・選択	選択必修	CAP制	対象
授 業 の 種 類	講義	単位数	2 単位	授業回数	15
授 業 担 当 者	磯部 靖世		単位認定責任者	磯部 靖世	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容					
授業科目の概要	<p>本授業は、海外への留学やインターンシップ・就職を考えている学生や、英語のコミュニケーション能力(特にスピーキングとライティングや)の強化を目指す学生向けにデザインしている。</p> <p>授業を通してさまざまなテーマ(都市学や言語学、メディア学など)やさまざまなジャンルのライティングの練習を行う。読んだものをまとめるスキル(brain storming)を練習し、英語のパラグラフの構成を理解し、そのスキルや知識をライティングに活かす。本授業はライティングとスピーキングを中心に講義・演習を行い、毎回の課題を重ねることによって、英語のスキルの定着を目指す。なお、ライティングとスピーキングが中心となるため、授業のための予習や復習、課題はライティングとスピーキングがメインとなる。一部の授業はオンラインやオンデマンドで実施される。本授業は、英語と日本語の両方を使用する。</p> <p>なお、本授業は学生同士のペアやグループワークを授業内で多く実施するため、登録者数が5名以下の場合には開講されない。</p>				
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本語にはない英語の音やリズム、発音に注意しながら、発話することができる。</li> <li>2. 英語のパラグラフの構造を理解し、ロジカルなパラグラフを構成することができる。</li> <li>3. 読んだもの、授業内でディスカッションしたことをもとにパラグラフを書くことができる。</li> <li>4. ライティングの演習を重ね、ピアが書いたライティングをロジカルに読んで、コメントをすることができる。</li> <li>5. 他者からもらったフィードバックをもとにパラグラフを書くことができる。</li> <li>6. 与えられたテーマに沿って、ロジカルに英語でパラグラフを書くことができる(300 語程度)。</li> </ol>				
学修成果評価項目(%)および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	30%	その他テスト・課題		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	20%	課題・取組状況等		
	論理性	10%	課題・取組状況等		
	国際性	10%	課題・取組状況等		
	協調性	10%	課題・取組状況等		
	創造力	10%	課題		
責任感	10%	課題・取組状況等			
授業の展開					
1.	授業について、Unit 1 (都市学)を使って授業の進め方と教科書について説明				
2.	Unit 1(都市学) Understanding main ideas and details. パラグラフについて。Reading 1の分析。Paragraphの構造を考えながら書く練習。				
3.	Unit 1 Understanding main ideas and details. Peer Review (この回までにエッセイを書いてくる)。				

4.	Unit 2(言語学) Understanding charts. Topic sentenceについて。Reading 1の分析。				
5.	Unit 2のReading 2の分析と動画視聴。 Narrationの書き方について。				
6.	Unit 2のPeer Review(この回までにエッセイを書いてくる)				
7.	Unit 3(メディア学) Making inferences. Supporting ideas and detailsについて。Reading 1の分析。				
8.	Unit 3のReading 2の分析と動画視聴。 描写の書き方について。				
9.	Unit 3のPeer review(この回までにエッセイを書いてくる)。				
10.	Unit 4(アート・サイエンス) Identifying purpose and audience. 図表について。Reading 1の分析。				
11.	Unit 4のReading 2の分析と動画視聴。ChartsやGraphsのまとめ方について。				
12.	Unit 4のPeer review。(この回までにエッセイを書いてくる)				
13.	Unit 5(旅行) Understanding pronoun references. Concluding sentencesについて。Reading 1の分析。 Unit 5の続きとPeer review(時間があれば動画視聴)。				
14.	Unit 5の続きとReading 2の分析。Short reportについて。				
15.	まとめとUnit 5のPeer Review (この回までにエッセイを書いてくる)				
授業外学修について	本授業は、予習(120分程度)復習(90分程度)が必須である。2回目以降は、ほぼ毎回確認クイズと課題がある。また、授業内で各学生が書いたライティングをPeer reviewするため、事前にライティングをしてもらうことが求められる。				
教科書	Reflect: Reading & Writing (Level 3) Laurie Blass, Christien Lee, Gary Pathare, Kristin D. Sherman, Jessica Williams, Mari Vargo (Cengage Learning)				
参考文献	特になし。				
試験等の実施	定期試験	その他のテスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	取組状況等
	×	○	×	○	○
成績評価の割合	0%	40%	0%	40%	20%
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69点~60点)、不可(59点~0点)				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への出席回数が3分の2未満の場合には不合格となる。</li> <li>・課題は提出期限を過ぎたものや翻訳ツールを使った課題は評価対象外となる。また、他の学生の課題や文献などをコピーをした場合は「不合格」となる</li> <li>・授業中の居眠りやスマホいじりなどは「欠席扱い」となる。</li> <li>・授業の進度や内容などは、状況により変更の可能性がある。</li> <li>・本授業は登録者が5名以下の場合、開講されない。</li> </ul>				

(英語と文化 I)

科 目 名	フランス語				
配 当 学 年	2年	必修・選択	選択必修	CAP制	対象
授 業 の 種 類	講義	単位数	2 単位	授業回数	30
授 業 担 当 者	高野 真理子(非常勤講師)		単位認定責任者	高野 真理子	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容	-				
授業科目の概要	<p>本授業では、話す、聞く、書く、読むという四技能をバランス良く学ぶことによって、フランス語の総合的な入門学習を目指します。日常生活や旅行における平易な表現から始めてフランス語の基礎力を養い、発音・会話練習や練習問題を通じてそれらを応用する力を伸ばしていきます。</p> <p>この点で、フランス語の実用能力を客観的に証明する実用フランス語検定試験(仏検)5級程度の語学力を目指せる学習といえます。</p> <p>また、言語を学ぶことは、それを使う人と国を知ることであります。この授業では芸術やグルメなど、フランスの文化や社会、歴史も紹介していきます。それらに親しむことによってヨーロッパへの理解を深め、広い視野を養うことも大切と言えるでしょう。</p>				
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. フランス語の音と綴り字の関係を理解することで、単語や短い文章を正確に発音することができる。</li> <li>2. 文法を理解し、単語や動詞の活用を暗記することで、挨拶、簡単な自己紹介や趣味についてフランス語で表現・作文することができる。</li> <li>3. 短いフランス語の文章を聞いて意味を理解し、また相手に質問することができる。</li> <li>4. 総合的な学習の成果として、実用フランス語検定 5 級程度の 4 技能(聞く、話す、読む、書く)を習得できる。</li> <li>5. フランス語の音の美しさ、文法の面白さ、ヨーロッパの豊かな文化に触れ、理解することによって、広い視野を養い、独自の意見を持って議論に参加できる。</li> </ol>				
学修成果評価項目(%)および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	70%	口頭発表、定期試験		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	10%	授業態度、口頭発表、課題		
	論理性	%			
	国際性	10%	口頭発表、定期試験		
	協調性	%			
	創造力	%			
	責任感	10%	口頭発表、定期試験		
授業の展開					
1.	ガイダンス:授業の進め方、評価についてなど 第1課 出会い(1): アルファベット、挨拶、être動詞				
2.	第1課 出会い(1): 第一群規則動詞、名詞の性・数、疑問文型				
3.	第2課 出会い(2): 出身地、職業の表現、前置詞 en, à, à と定冠詞の縮約				
4.	第2課 出会い(2): 所有形容詞、疑問形容詞、人称代名詞強勢形、数字				
5.	第3課 紹介する: 否定文、単純倒置形・複合倒置形				
6.	第3課 紹介する: 前置詞deと定冠詞の縮約				
7.	第4課 専攻と余暇: 科目・趣味の語彙、部分冠詞				

8.	第4課 専攻と余暇:好き嫌いの表現、中性代名詞en,y				
9.	第5課 家族:家族の語彙、指示表現、否定のde、形容詞				
10.	第5課 家族:形容詞の女性形、男性第2形を持つ形容詞、口頭発表①				
11.	第6課 持ち物:持ち物の語彙、物の名前を尋ねる、口頭発表②				
12.	第6課 持ち物:所有を表す表現、口頭発表③				
13.	第10課 食品:朝食のメニュー、好きな食べもの、口頭発表④				
14.	第10課 食品:カフェでの注文、口頭発表⑤				
15.	まとめ:口頭発表(予備日)、試験対策				
授業外学修について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書、配布するプリント、課題等で必ず予習・復習をすること。その際には、各回とも前回の授業の学習内容、とりわけ動詞の活用や重要単語は暗記して授業に臨むこと。テキストを読み、初回の単語は調べ、質問事項をまとめておくなど、言語学習は毎日少しでもこつこつ行うのが望ましい。</li> <li>・教科書付属の音声ダウンロードし、各自発音の確認・練習を行うことが望ましい。</li> <li>・出される課題もしくは教科書付属のワークブックには必ず取り組み、課題は提出期限までに提出すること(提出形式は、ポータルから出題し、google フォームで行う予定)。やむを得ない場合で提出が遅れた場合も極力提出することが望ましい。採点結果が極めて不十分な場合には、再提出を求める場合があるので注意すること。</li> <li>・テーマや各課の区切りで小テスト(動詞の活用など)を行うことがある。事前に通知するのでしっかり準備をすること。</li> </ul>				
教科書	高橋百代 他著『場面で学ぶフランス語 I (三訂版)』、三修社、2019 補助のプリントも配布予定				
参考文献	仏和辞典を一冊購入することを推奨する。 辞典についての詳細は、ガイダンス時に紹介する。				
試験等の実施	定期試験	その他のテスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	取組状況等
	○	×	○	○	○
成績評価の割合	50%	0%	15%	20%	15%
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69点～60点)、不可(59点～0点)				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への積極的な参加態度、小テスト、課題の提出、口頭発表、定期試験などにより総合的に評価する。</li> <li>・出席は非常に重要。欠席が規定時間数の3分の1を越えれば期末試験の受験資格を失う。毎回出席することに加え、積極的に声をだし発音すること、会話練習や口頭発表、宿題などに主体的に取り組む姿勢を評価する。</li> <li>・遅刻は厳禁。3回の遅刻で1回の欠席にカウントする。</li> <li>・定期試験は、教科書、ワークブック、課題プリントなどからも出題される。課題や小テスト、ワークブックは取り組み後、ノートにまとめるなどして復習することが望ましい。再試験は行わないので注意すること。</li> <li>・課題の解説はポータルへの掲載、プリント配布、あるいは授業内で全員に共有など、必要に応じて行う予定。</li> </ul>				

(フランス語)

科目名	中国語1				
配当学年	2年	必修・選択	選択必修	CAP制	対象
授業の種類	講義	単位数	2単位	授業回数	30
授業担当者	云 肖梅(非常勤講師)		単位認定責任者	云 肖梅	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容	-				
授業科目の概要	<p>中国は世界の人口の五分之一を占め、世界第二の経済大国に成長したことに伴い、日中間の科学技術、経済、文化などさまざまな分野で交流が深まりつつある。その交流に加わるために中国語の修得が不可欠で、その文化を理解するのも大事である。本講義では、中国語の基本として、発音、文字、語彙、構文、会話について、日本語と比べながら、わかりやすく説明し、文法演習を重ね、実用的会話の練習も繰り返すうちに、自然に中国語会話力、作文力をマスターする。また、授業の内容を交えて、映像資料で中国の文化、最新情報も紹介する。</p>				
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中国語の表音文字が発音できる。</li> <li>2. 中国語の基本文法をマスターすることができる。</li> <li>3. 日常的会話力を習得することができる。</li> <li>4. 簡単な作文能力を習得することができる。</li> <li>5. 語学の勉強に伴って、最新中国事情を知り、文化的理解を深めることができる。</li> </ol>				
学修成果評価項目(%)および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	80%	期末試験、小テスト		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	5%	レポート		
	論理性	%			
	国際性	15%	授業参加		
	協調性	%			
	創造力	%			
	責任感	%			
授業の展開					
1.	ガイダンス 中国語概論				
2.	中国語の発音入門				
3.	中国語の発音入門				
4.	第一課 人称代名詞 あなたの名前は何といますか。				
5.	第二課 指示代名詞 これは何ですか。				
6.	第三課 動詞述語文 あなたは何を食べますか。				
7.	第四課 形容詞述語文 最近はどうですか。				
8.	第五課 名詞述語文 全部でおいくらですか。				
9.	第六課 存在を表す「有」と 所在を表す「在」 病院はどこですか。				
10.	第七課 前置詞 どこで会いましょうか。				
11.	第八課 完了、経験の表現 どのくらい行っていたのですか。				

12.	第九課 助動詞 何を見ているんですか。				
13.	第十課 様態補語 趣味は何ですか。				
14.	第十一課 結果補語 航空券はもう予約しましたか。				
15.	第十二課 方向補語 道中ご無事に				
授 業 外 学 修 に つ い て	1課ごとに宿題を配布、チェックする。				
教 科 書	云肖梅 森若裕子著『校园故事 キャンパス物語』松柏社				
参 考 文 献	適宜指示する。				
試 験 等 の 実 施	定期試験	その他の テスト	課題・ レポート	発表・プレゼン テーション	取組状況等
	○	○	○	×	○
成績評価の割合	50%	30%	5%	0%	15%
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69点～60点)、不可(59点～0点)				
試験等の実施、 成績評価の基準に 関する補足事項	定期試験は持ち込み不可、いままでの合格率は90-95%。				

(中国語1)

科 目 名	アメリカ事情Ⅱ				
配 当 学 年	2年	必修・選択	選択必修	CAP制	対象
授 業 の 種 類	講義	単位数	2単位	授業回数	15
授 業 担 当 者	Randy L.Evans		単位認定責任者	EVANS RANDY LYNN	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容					
授業科目の概要	<p>THIS IS AN ALL ENGLISH CLASS. Students are expected to speak to me, and to each other, ONLY in English during class.</p> <p>Class content will consist a number of advanced English "Modules" concerning a variety of topics.</p> <p>ALL students will be expected to SPEAK in English, READ English, WATCH video in English, LISTEN to English music, ROLE-PLAY in English, and SING in English!!</p>				
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Students will be able to use new vocabulary.</li> <li>2. Students will be able to read English passages.</li> <li>3. Students will be able to understand spoken English.</li> <li>4. Students will be able to understand US culture.</li> <li>5. Students will be able to discuss a variety of topics.</li> </ol>				
学修成果評価項目(%)および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	60%	定期試験、小テスト(クイズ)		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	%			
	論理性	%			
	国際性	20%	ワークシート、小テスト(クイズ)		
	協調性	20%	ワークシート		
	創造力	%			
	責任感	%			
授業の展開					
1.	Course Introduction				
2.	Interactive Game Introduction				
3.	Reading Passage				
4.	Interactive Game				
5.	Reading Passage				
6.	Interactive Game				
7.	Reading Quiz				
8.	Listening & Video				
9.	Reading Passage				
10.	Listening & Video				
11.	Reading Passage				

12.	Listening & Video				
13.	Reading Passage				
14.	Listening Quiz				
15.	Reading Quiz				
授業外学修について	Students will receive various handouts that should be perused before lecture. Particularly the reading passages should be read before coming to lecture. 学生がいろいろなプリントをもらいます。このプリントを講座前にみてください。特に読書のプリントを読んでください。				
教科書	Handouts				
参考文献	使用しない				
試験等の実施	定期試験	その他のテスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	取組状況等
	○	○	×	×	×
成績評価の割合	50%	50%	0%	0%	0%
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69点~60点)、不可(59点~0点)				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項					

(アメリカ事情Ⅱ)

科 目 名	TOEIC II				
配 当 学 年	2年	必修・選択	選択必修	CAP制	対象
授 業 の 種 類	講義	単位数	2単位	授業回数	15
授 業 担 当 者	磯部 靖世		単位認定責任者	磯部 靖世	
実務経験の有無					
実務経験のある教員名および授業の関連内容					
授業科目の概要	<p>本授業は、インプットや参考書をもとにした自主学習主体でテスト対策を講じることができる TOEIC Listening &amp; Reading を扱う授業ではなく、実践的で正確なアウトプットをより求められる TOEIC Speaking &amp; Writing に類似した問題を用いて英語のスキル(リスニング、スピーキング、ライティング、リーディング)の向上を目指す演習中心の授業である。したがって、TOEICテスト対策のための授業ではない。</p> <p>授業では教科書内にあるスピーキングやライティングの設問の回答を受講生同士がレビューし合い、学生が主体的に学修する授業である。語彙に関しては、ほぼ毎授業の冒頭でクイズを実施するため、受講生が自主的に勉強することが求められる。タイミングが合えば、海外の大学と交流をし、実践的に英語でコミュニケーションをとる。中学・高校の授業では扱われる機会が少ない発音の練習も導入し、発音の強化を目指す。なお、本授業は学生同士のペアやグループワークを授業内で多く実施するため、登録者数が5名以下の場合には開講されない。授業の成績も、定期テストに準ずる課題だけで成績をつけるのではなく、クイズやHWも成績に関わるため、授業時間外の学修や予習復習が求められる。一部の授業はオンラインやオンデマンドで実施されることもある。</p>				
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語らしい発音、リズム、テンポで発話することができる(スピーキング)。</li> <li>2. 写真や絵を見て、それらを自分のことばで正確に説明することができる(スピーキング、ライティング)。</li> <li>3. 身近な話題についての質問に答えたり、会話をすることができる(リスニング、リーディング、スピーキング)。</li> <li>4. 未学習の語彙があっても、文脈などで意味を補足することができる(リスニング、リーディング、スピーキング)。</li> <li>5. あるテーマについて、自分の意見をロジカルに述べるることができる(リスニング、リーディング、ライティング、スピーキング)。</li> </ol>				
学修成果評価項目(%)および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	30%	定期試験・その他テスト・課題		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	20%	課題		
	論理性	10%	課題・ピアレビュー		
	国際性	10%	課題		
	協調性	10%	ピアレビュー		
	創造力	10%	課題		
	責任感	10%	課題・ピアレビュー・取組状況等		

授業の展開					
1.	授業オリエンテーションとUnit 1 音読(日常編)、聞き手にわかりやすい発話の練習				
2.	Unit 1の続き				
3.	Unit 2 写真描写(日常編)、具体的で伝わりやすい描写の練習				
4.	Unit 3 応答、身近な話題に関する質問に対応する練習				
5.	Unit 3 応答、身近な話題に関する質問に対応する練習				
6.	Unit 4 提示された情報にも基づく応答(日常編)、資料を見てそれに関する質問に対応する練習				
7.	Unit 4の続き				
8.	Unit 6 意見を述べる(日常編)、ロジカルに意見を述べる練習				
9.	Unit 6の続き				
10.	Unit 8 Eメールの書き方(日常編・ビジネス編)				
11.	Eメールの書き方(日常編・ビジネス編)の続き				
12.	Unit 3(ビジネス編)応答、身近な話題に関する質問に対応する練習				
13.	Unit 4 提示された情報にも基づく応答(ビジネス編)、資料を見てそれに関する質問に対応する練習				
14.	Unit 8 意見を述べる(ビジネス編)、ロジカルに意見を述べる練習				
15.	Unit 8の続きと授業のまとめ				
授 業 外 学 修 に つ い て	本授業では、予習・復習は必須であり、2回目以降は、ほぼ毎回課題と確認クイズを実施する。そのため、授業で扱った内容は、必ず復習しておくこと(復習と課題90分程度)。また、授業へ参加する前に、授業で扱うUnitに目を通し、語彙を必ず確認すること(予習と課題90分程度)				
教 科 書	- THE ESSENTIAL GUIDE TO THE TOEIC S&W TESTS/TOEIC® はじめてのS&W総合対策入門 松岡昇、傍島和夫(松柏社)				
参 考 文 献					
試 験 等 の 実 施	定期試験	その他の テスト	課題・ レポート	発表・プレゼン テーション	取組状況等
	x	○	○	x	○
成績評価の割合	0%	40%	40%	0%	20%
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69点～60点)、不可(59点～0点)				
試験等の実施、 成績評価の基準に 関する補足事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への出席回数が3分の2未満の場合には不合格となる。また、授業中の居眠りやスマホいじりなどは、「欠席扱い」となる。</li> <li>・授業の進度や内容などは、状況により変更の可能性がある。</li> <li>・期日を過ぎた課題・HWは、評価対象外となる。ただし、何か特別な理由がある場合は、必ず連絡をすること。また、本授業では、追試・再試は実施しない。</li> <li>・本授業は、HW、クイズ、定期テスト代わりに課題のウェイトがほぼ同じであるため、日頃から予習復習や発話の練習が必要となる。</li> <li>・本授業はペアワークやグループワークを通じて、授業内のワークをするため、登録者数が5名以下の場合には開講されない。</li> </ul>				

科 目 名	英語と文化Ⅱ				
配 当 学 年	2年	必修・選択	選択必修	CAP制	対象
授 業 の 種 類	講義	単位数	2単位	授業回数	15
授 業 担 当 者	小川 正浩		単位認定責任者	小川 正浩	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容					
授業科目の概要	この授業では、世界の文化を歴史的にとらえ、思想や芸術の幅広い教養を身につけると同時に異質なものの、多様なものを理解し、受容することができるようになることを目指す。具体的には、ゴシック文学の古典である「ドラキュラ」(大学初級から中級レベル)と今やアメリカ都市伝説の古典と化した「消えたヒッチハイカー」(大学中級レベルから上級レベル)を精読しながら、両作品に隠された様々な問題を歴史的・社会的・文化的文脈から批判的に読み解いていく視点を養っていく。				
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外国の芸術文化を理解し、多様性を認める寛容力を持つことができる。</li> <li>2. 授業中に取り上げる英文を精読することで批判的に分析する思考力を身につけることができる。</li> <li>3. 「ドラキュラ」に関連する資料を通して「ドラキュラ」の歴史的・社会的・文化的背景を知ることができる。</li> <li>4. 「消えたヒッチハイカー」に所収された3つのアメリカの都市伝説を読むことでそこに描かれた世界がいわばその社会に共通した不安や恐怖を照らし出していることに気づくと同時にそれらが現代アメリカ人の意識下に横たわる暗闇を映し出す鏡として働いていることを認識できる。</li> <li>5. 多読によって英語の物語や説明文を和訳せずに速く読むことができる(直読直解)。</li> </ol>				
学修成果評価項目(%)および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	60%	期末テスト		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	30%	課題提出(多読・演習問題・レポート)、テキストの予習(日本語訳作成)		
	論理性	%			
	国際性	10%	外国文化の理解・受容		
	協調性	%			
	創造力	%			
	責任感	%			
授業の展開					
1.	ガイダンス(授業の進め方など)				
2.	ドラキュラ 1章「ハーカー、トランシルヴァニアへ」 2章「ドラキュラ城に囚われて」、多読提出				
3.	ドラキュラ 3章「伯爵の出立」 4章「死者たちの船」、多読・演習問題提出				
4.	ドラキュラ 5章「ルーシー、侵入口となる」 6章「ルーシー、戦場となる」、多読・演習問題提出				
5.	ドラキュラ 7章「不死者ルーシー」 8章「ヴァンヘルシングの分析と戦略」、多読・演習問題提出				

6.	ドラキュラ 9章「ミナの危機」 10章「ミナ、探知器となる」、多読・演習問題提出				
7.	ドラキュラ 11章「再び、トランシルヴァニアへ」 12章「終焉」、多読・演習問題提出				
8.	レポート作成のための映像視聴:トッド・ブラウニング監督「ドラキュラ」(1931)				
9.	The Death Cat 、多読・演習問題・レポート提出				
10.	The Boyfriend's Death ①、多読提出				
11.	The Boyfriend's Death ②、多読提出				
12.	The Vanishing Hitchhiker ①、多読提出				
13.	The Vanishing Hitchhiker ②、多読提出				
14.	The Vanishing Hitchhiker ③、多読提出				
15.	まとめ				
授 業 外 学 修 に つ い て	授業外学習は、以下の事項に毎週少なくとも4時間程度あてることが望ましい。 1. テキスト・プリントの予習(日本語訳作成) 2. テキストの演習問題の課題 3. 多読の課題(週に3000語以上) 4. レポート作成				
教 科 書	細川裕子『ドラキュラ リトルド版』(英宝社) (「消えたヒッチハイカー」等の英文についてはプリントで配布。)				
参 考 文 献	特になし。				
試 験 等 の 実 施	定期試験	その他の テスト	課題・ レポート	発表・プレゼン テーション	取組状況等
	○	×	○	×	○
成績評価の割合	60%	0%	10%	0%	30%
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69点~60点)、不可(59点~0点)				
試験等の実施、 成績評価の基準に 関する補足事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価や授業の進め方、辞書の携帯等に関しては、ガイダンス時において詳細に説明するので、履修希望者は必ず出席すること。</li> <li>・授業は「対面授業」のスタイルで行う。また、実際の授業にあたって上記の授業内容に変更が生じる場合があるかもしれないことを予め了承のこと。変更があれば、ガイダンス時または授業中に連絡する。</li> </ul>				

(英語と文化Ⅱ)

科 目 名	ドイツ語				
配 当 学 年	2年	必修・選択	選択必修	CAP制	対象
授 業 の 種 類	講義	単位数	2単位	授業回数	30
授 業 担 当 者	鈴木 純一(非常勤講師)		単位認定責任者	鈴木 純一	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容	-				
授業科目の概要	ヨーロッパの言語の文法を構成している三本柱は、動詞と名詞(代名詞)と語順に関する文法で、中でも動詞の文法(人称変化と動詞が置かれる位置)が最も重要です。授業では動詞の学習に特に力点を置き、不定詞句から指示された文を作る練習をします。英語に比べてドイツ語の文法変化は複雑ですが、細部にとらわれずに、大きくドイツ語という言語の構造を理解して下さい。				
授業科目の到達目標	1. 各課の基本的な会話を覚え、それを応用して基礎的な文章表現ができる。 2. 単語や文章を正確に発音ができる。 3. 基礎単語500語を使うことができる。 4. 値段や時刻、年月日など数の表現ができる。 5. ドイツ語圏の社会や文化の知識を用いた異文化コミュニケーションができる。				
学修成果評価項目(%)および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	70%	中間試験と定期試験によって評価する。		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	20%	課題、授業での準備・発表等の取組姿勢で評価する。		
	論理性	%			
	国際性	10%	ドイツ語圏の社会や文化の理解度・応用力を評価する。		
	協調性	%			
	創造力	%			
	責任感	%			
授業の展開					
1.	ガイダンス(ドイツ語はどんな言葉か)、つづりと発音① (Lektion 0) * 末尾の(Lektion 〇)は教科書の課を表す。				
2.	つづりと発音②、発音練習(数の言い方、挨拶)(Lektion 0)				
3.	人称代名詞と動詞の現在人称変化(規則変化動詞、sein、haben、werdenの変化、定動詞とその位置)(Lektion 1)				
4.	名詞の性と格(不定冠詞と定冠詞と格変化)、人称代名詞の格変化、名詞の複数形(Lektion 2)				
5.	現在人称変化(不規則変化動詞)、動詞の人称変化のまとめ、命令形、冠詞類の格変化、否定文(Lektion 3)				
6.	話法の助動詞、前置詞と格支配(Lektion 4)				
7.	複合動詞(分離動詞と非分離動詞)、接続詞、形容詞の格変化、時刻の言い方(Lektion 5)				
8.	基礎文法前半のまとめ、中間試験				
9.	過去表現Ⅰ(過去形)、動詞の三基本形、過去人称変化(Lektion 6)				
10.	過去表現Ⅱ(現在完了形)(Lektion 6)				
11.	受動態、比較表現 (Lektion 7)				

12.	関係代名詞、関係副詞、再帰表現 (Lektion 8)				
13.	Zu不定詞、分詞、非人称動詞(Lektion 9)				
14.	基礎文法後半のまとめ				
15.	中級文法への展開(接続法など)				
授 業 外 学 修 に つ い て	事前に教科書の予定されている課(特に文法説明)を読んでおくこと。授業後には適宜課題を出す。語学の学習には復習と反復練習が効果的であるので、早めに復習しておくこと。				
教 科 書	『ドイツに行ってみませんか(Ver.4=2025)』(佐藤和弘他著:郁文堂)				
参 考 文 献	独和辞典を活用することが望まれる。初学者に推薦できるのは『アポロン独和辞典』(同学社)、『アクセス独和辞典』(三修社)、『クラウン独和辞典』(三省堂)の三つ。				
試 験 等 の 実 施	定期試験	その他の テスト	課題・ レポート	発表・プレゼン テーション	取組状況等
	○	×	○	×	○
成績評価の割合	70%	0%	10%	0%	20%
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69点~60点)、不可(59点~0点)				
試験等の実施、 成績評価の基準に 関する補足事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 開講中に試験は2度行う。</li> <li>・中間テスト: 15回目の授業が終了した段階で行う。(試験範囲は1~15回目の授業で学習した事項)</li> <li>・定期試験: 30回目の授業が終了した段階で行う。(試験範囲は16~30回目の授業で学習した事項)</li> <li>・再試験: 中間テスト、および定期試験で合格点に達しなかった者に対して実施する場合がある。</li> <li>○ 適時課題を出すのが、理解度を自己チェックするもので、成績評価には加えない。</li> </ul>				

(ドイツ語)

科目名	中国語2				
配当学年	2年	必修・選択	選択必修	CAP制	対象
授業の種類	講義	単位数	1単位	授業回数	15
授業担当者	云 肖梅(非常勤講師)		単位認定責任者	云 肖梅	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容	-				
授業科目の概要	<p>「せっかく中国語1(初級レベル)を突破したから、もっと通用するまで勉強したい」と考えている人のために開設する中国語中級クラスである。講義では中国の最新情報を内容とするテキストを使用し、読解を中心に文法、重要語句を文例で分かりやすく説明した上で、朗読、翻訳の練習を行い、凄まじく変貌する中国事情の映像、資料などを楽しみながら中国語の実力をアップする。中国語3の講義内容は中国語2の継続で、同一の教科書を使う。</p>				
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中国語1で習った中国語基本文法をベースに一歩進んで重要語句などが習得できる。</li> <li>2. 中国語の問題の解答能力を高める。</li> <li>3. 辞書を使って一般の中国語の文章が読める。</li> <li>4. 中国語の勉強に伴って最新の中国情報が取得できる。</li> <li>5. 今後独学でも中国語の上級のレベルアップすることができるような基礎が築ける。</li> </ol>				
学修成果評価項目(%)および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	35%	授業参加、テスト		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	50%	レポート		
	論理性	%			
	国際性	15%	授業参加		
	協調性	%			
	創造力	%			
	責任感	%			
授業の展開					
1.	ガイダンス ピンインと基本文型の復習				
2.	第一課 中国人の朝食 重要語句 文法要点				
3.	短文読解 練習問題				
4.	第二課 タクシーに乗る 重要語句 文法要点				
5.	短文読解 練習問題				
6.	第三課 高価な映画券 重要語句 文法要点				
7.	短文読解 練習問題				
8.	まとめとテスト				
9.	第四課 AA製とAB製 重要語句 文法要点				
10.	短文読解 練習問題				
11.	第五課 病気 重要語句 文法要点				
12.	短文読解 練習問題				

13.	第六課 ネットショッピング 重要語句 文法要点				
14.	短文読解 練習問題				
15.	翻訳レポート				
授業外学修について	授業中に小テストを行うため、復習しておくこと。				
教科書	内田慶市ほか『中国語への道【準中級編】』金星堂				
参考文献	適宜指示する。				
試験等の実施	定期試験	その他のテスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	取組状況等
	×	○	○	×	○
成績評価の割合	0%	20%	50%	0%	30%
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69点~60点)、不可(59点~0点)				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項	学期末に翻訳レポートを提出する。				

(中国語2)

科目名	中国語3				
配当学年	3年	必修・選択	選択必修	CAP制	対象
授業の種類	講義	単位数	1単位	授業回数	15
授業担当者	云 肖梅(非常勤講師)		単位認定責任者	云 肖梅	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容	-				
授業科目の概要	<p>「せっかく初級レベルを突破したから、もっと通用するまで勉強したい」と考えている人のために開設する中国語中級クラスである。講義では中国の最新情報を内容とするテキストを使用し、読解を中心に文法、重要語句を文例で分かりやすく説明する上、朗読、翻訳の練習を行い、凄まじく変貌する中国事情の映像、資料などを楽しみながら中国語の実力をアップする。講義の後半期に中国語検定試験についても紹介し、模擬テストを経験してみる。</p> <p>中国語3の講義内容は中国語2の継続で、同一の教科書を使う。</p>				
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 初級レベルで習った中国語基本文法をベースに一步進んで重要語句などが習得できる。</li> <li>2. 中国語の問題の解答能力を高める。</li> <li>3. 辞書を使って一般の中国語の文章が読める。</li> <li>4. 中国語の勉強に伴って最新の中国情報が取得できる。</li> <li>5. 今後独学でも中国語の上級のレベルアップすることができるような基礎が築ける。</li> </ol>				
学修成果評価項目(%)および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	35%	授業参加、テスト		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	50%	レポート		
	論理性	%			
	国際性	15%	授業参加、レポート		
	協調性	%			
	創造力	%			
	責任感	%			
授業の展開					
1.	ガイダンス ピンインと基本文型の復習				
2.	第七課 剩男剩女 重要語句 文法要点				
3.	短文読解 練習問題				
4.	第八課 大学生生活 重要語句 文法要点				
5.	短文読解 練習問題				
6.	第九課 感謝を表す 重要語句 文法要点				
7.	短文読解 練習問題				
8.	中国語検定模擬試験				
9.	第十課 若者の就職意識 重要語句 文法要点				
10.	短文読解 練習問題				
11.	第十一課 月光族 重要語句 文法要点				

12.	短文読解 練習問題				
13.	第十二課 海外での奇遇 重要語句 文法要点				
14.	短文読解 練習問題				
15.	翻訳レポート				
授 業 外 学 修 に つ い て	授業中にテストを行うため、復習をしておくこと。				
教 科 書	内田慶市ほか『中国語への道【準中級編】』金星堂				
参 考 文 献	授業中適宜指示する。				
試 験 等 の 実 施	定期試験	その他の テスト	課題・ レポート	発表・プレゼン テーション	取組状況等
	×	○	○	×	○
成績評価の割合	0%	20%	50%	0%	30%
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69点～60点)、不可(59点～0点)				
試験等の実施、 成績評価の基準に 関する補足事項	学期末に翻訳レポートを提出する。				

(中国語3)

科 目 名	科学技術英語 I				
配 当 学 年	3年	必修・選択	選択必修	CAP制	対象
授 業 の 種 類	講義	単位数	2 単位	授業回数	15
授 業 担 当 者	Olaf Karthaus		単位認定責任者	Olaf Karthaus	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容					
授業科目の概要	Technical English is different from colloquial English. Technical reports have a strict structure and follow some simple rules. On the other hand, technical reports also contain many unfamiliar phrases, idioms and vocabulary. This lecture will use example texts from various technical and scientific fields, such as natural sciences, engineering, and informatics to teach the peculiar structure and function of a technical report				
授業科目の到達目標	1. The students will be able to read technical reports. 2. Students will learn a list of useful vocabulary. 3. Students will learn useful idiomatic phrases that are used in technical reports. 4. Students will learn the grammatical style of a technical report. 5. The students will be able to understand technical reports.				
学修成果評価項目(%)および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	30%	レポート、プレゼンテーション		
	専門知識	30%	レポート、プレゼンテーション		
	倫理観	%			
	主体性	10%	レポート、プレゼンテーション、取組状況		
	論理性	%			
	国際性	10%	レポート、プレゼンテーション、取組状況		
	協調性	5%	取組状況		
	創造力	5%	レポート、プレゼンテーション		
	責任感	10%	レポート、プレゼンテーション、取組状況		
授業の展開					
1.	Introduction to the topic				
2.	Purpose and structure of a technical report				
3.	Grammatical rules that apply to a technical report I				
4.	Grammatical rules that apply to a technical report II				
5.	Idioms, phrases and vocabulary often used in a technical report.				
6.	Greek and Latin roots of vocabulary				
7.	Application of those idioms, phrases and vocabulary				
8.	The use of AI (ChatGPT etc) for learning English I				
9.	The use of AI (ChatGPT etc) for learning English II				
10.	Translation of a technical report from English to Japanese I				
11.	Translation of a technical report from English to Japanese II				
12.	Translation of a technical report from Japanese to English I				

13.	Translation of a technical report from Japanese to English II				
14.	Translation of a technical report from Japanese to English III				
15.	Summary				
授業外学修について	Memorizing vocabulary. Training of grammar rules.				
教科書	ポータルからダウンロードできるプリント Olaf Karthausら, “オラフ教授式 理工系のたのしい英語プレゼン術77”, 講談社, ISBN 978-4065196090, 2640円				
参考文献	なし				
試験等の実施	定期試験	その他のテスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	取組状況等
	×	×	○	○	○
成績評価の割合	0%	0%	40%	40%	20%
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69点~60点)、不可(59点~0点)				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項	「レポート」 翻訳課題 「取組状況」 授業中のグループワークとディスカッション				

(科学技術英語 I)

科 目 名	科学技術英語Ⅱ				
配 当 学 年	3年	必修・選択	選択必修	CAP制	対象
授 業 の 種 類	講義	単位数	2 単位	授業回数	15
授 業 担 当 者	Olaf Karthaus		単位認定責任者	Olaf Karthaus	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容					
授業科目の概要	<p>Technical English is different from colloquial English. Technical reports have a strict structure and follow some simple rules. Based on the lecture in spring, this lecture will use this knowledge and the students will write a short technical report about an experiment the students conducted in class.</p> <p>技術英語は口語英語とは異なる。技術報告書には厳格な構成があり、いくつかの基本的なルールに従って作成される。本講義では、春学期の講義内容を基礎として、その知識を活用し、学生が授業で実施した実験についての短い技術報告書を作成する。</p>				
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. The students will be able to observe experiments in class.</li> <li>2. The students will learn a list of vocabulary concerning these experiments.</li> <li>3. Students will be able to use useful phrases and idioms for a technical report.</li> <li>4. The students will be able to write a 200 word short technical report.</li> <li>5. Students will be able to listen to the presentation of a technical report.</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生は授業中に実験を観察できるようになる。</li> <li>2. 学生はそれらの実験に関する語彙を学ぶことができるようになる。</li> <li>3. 学生は技術報告書に役立つ表現やイディオムを使用できるようになる。</li> <li>4. 学生は 200 語程度の短い技術報告書を書くことができるようになる。</li> <li>5. 学生は技術報告書の発表を聞くことができるようになる。</li> </ol>				
学修成果評価項目 (%) および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	30%	レポート、プレゼンテーション、取り組み状況		
	専門知識	30%	レポート、プレゼンテーション、取り組み状況		
	倫理観	%			
	主体性	20%	レポート、プレゼンテーション		
	論理性	%			
	国際性	20%	レポート、プレゼンテーション		
	協調性	%	取り組み状況		
	創造力	%			
	責任感	%	レポート、プレゼンテーション、取り組み状況		
授業の展開					
1.	Introduction to the topic				
2.	Structure and grammatical rules of a technical report				
3.	The use of AI (ChatGPT etc) for learning English				
4.	Experiment #1				
5.	Idioms, phrases and vocabulary concerning this experiment				

6.	Writing a 200 word report I				
7.	Writing a 200 word report II				
8.	Presentation of the report I				
9.	Presentation of this report II				
10.	Experiment #2				
11.	Idioms, phrases and vocabulary concerning this experiment				
12.	Writing a 200 word report I				
13.	Writing a 200 word report II				
14.	Presentation of the report I				
15.	Presentation of this report II				
授 業 外 学 修 に つ い て	復習について: 授業のノートを整理しながら理解度を確認し、理解できなかったところは次回の授業で質問できる ようまとめておく。				
教 科 書	Olaf Karthausら, “オラフ教授式 理工系のたのしい英語プレゼン術77”, 講談社, ISBN 978-4065196090, 2640円				
参 考 文 献	Richard Cowellら, “技術英語の基本”, コロナ社, ISBN 4-339-07780-1, 2400円				
試 験 等 の 実 施	定期試験	その他の テスト	課題・ レポート	発表・プレゼン テーション	取組状況等
	×	×	○	○	○
成績評価の割合	0%	0%	50%	40%	10%
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69点~60点)、不可(59点~0点)				
試験等の実施、 成績評価の基準に 関する補足事項	「レポート」 宿題のレポート 「プレゼンテーション」 宿題の口頭プレゼンテーション 「取り組み状況」 授業中のディスカッション				

(科学技術英語Ⅱ)

科 目 名	英語コミュニケーション				
配 当 学 年	1年	必修・選択	選択	CAP制	対象
授 業 の 種 類	講義	単位数	2単位	授業回数	15
授 業 担 当 者	Randy L.Evans		単位認定責任者	EVANS RANDY LYNN	
実務経験の有無					
実務経験のある教員名および授業の関連内容					
授業科目の概要	<p>Students will learn basic vocabulary and phrases concerning information technology. Much time will be spent writing, preparing and delivering an English presentation. All students will be required to use some kind of presentation software, such as Apple Keynote or Microsoft PowerPoint. This class is held in English.</p> <p>基本的なITの単語と表現を学ぶ。多くの時間は学生が英語の発表を書いて発表する。この発表でプレゼンテーション・ソフト(例えば、AppleのKeynoteやMicrosoftのPowerPointなど)の使用が求められます。全て英語で行います。</p>				
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. IT 関係の英単語を分かることができる。</li> <li>2. 英語で指示聞いてタスクをすることができる。</li> <li>3. プレゼンテーションを英語で書くことができる。</li> <li>4. 英語でプレゼンテーションソフトを使ってプレゼンテーションを作成することができる。</li> <li>5. 効果的な英語プレゼンテーションを行うことができる。</li> </ol>				
学修成果評価項目(%)および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	50%	定期試験		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	%			
	論理性	%			
	国際性	%			
	協調性	%			
	創造力	50%	プレゼンテーション		
責任感	%				
授業の展開					
1.	Introduction イン트로ダクション				
2.	Mobile Technologies モバイルテクノロジー				
3.	Computational Thinking 計算論的思考				
4.	Web Literacy ウェブリテラシー				
5.	Digital Media デジタルメディア				
6.	Word Processing ワードプロセッシング				
7.	Social Media ソーシャルメディア				
8.	Databases & Spreadsheets データベースとスプレッドシート				
9.	Graphing グラフの作り方				
10.	Using Presentation Software プレゼンテーションソフトの使い方				

11.	Writing the Final Presentation 最終プレゼンテーションの作成				
12.	Designing the Final Presentation 最終プレゼンテーションの設計				
13.	Preparing for the Final Presentations 最終プレゼンテーションの準備				
14.	Final Presentations 最終プレゼンテーション				
15.	Final Presentations 最終プレゼンテーション				
授業外学修について	<p>We will use some class time for making the presentations, but students will largely complete the presentations outside class. Students should also use their own time to review the vocabulary, as well as other small assignments.</p> <p>プレゼンテーション作成は授業内でも行いますが、殆ど授業外に作成する必要があります。さらに、授業外に単語の復習やその他の宿題に取り組む必要があります。</p>				
教科書	適宜プリントを配付・使用する				
参考文献	なし				
試験等の実施	定期試験	その他のテスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	取組状況等
	○	○	×	○	×
成績評価の割合	0%	50%	0%	50%	0%
成績評価の基準	<p>本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。</p> <p>秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69点~60点)、不可(59点~0点)</p>				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項					

(英語コミュニケーション)

科 目 名	時事英語				
配 当 学 年	1年	必修・選択	選択	CAP制	対象
授 業 の 種 類	講義	単位数	2単位	授業回数	15
授 業 担 当 者	小川 正浩		単位認定責任者	小川 正浩	
実務経験の有無					
実務経験のある教員名および授業の関連内容					
授業科目の概要	この授業では、実際のビジネスシーンを題材にした英文を使用して将来の仕事に役立つような聴解力と読解力を養っていく。具体的には、ビジネスでの様々な場面を想定した英文を多く読むことで英文の素早い処理と正確な内容把握に必要な読解力の向上を図っていく。また、ビジネス英語の題材を含むTOEICのテキストを副教材として用い、その練習問題を通してTOEICテストの形式に慣れ、500点から600点のスコアを取れるような力をつけることも併せて目標とする。				
授業科目の到達目標	<p>1 ビジネスシーンを想定した英文を使って様々な「ミッション」に挑戦し、英文の概要を素早く捉える練習を行うことで必要な情報を的確に把握することができる。</p> <p>2 テキストの各 Unit にはリスニング・リーディングの全パートの問題が配置されていて、これらの問題を解くことで TOEIC の問題形式に慣れることができる。また各パートには「解法のポイント」が用意されていて、これらを参考に繰り返し問題を解くことでスコアの向上を図ることができる。</p> <p>3 さらに上記のテキストは、Web 学習システムの「リングポルタ」に対応しているので、パソコンなどを利用したモバイルラーニングによって様々な問題を解くことができ、基礎力のみならず応用力も身につけることができる。</p> <p>4 実践形式問題では、特にリーディングセクションの 3 つのパートのそれぞれに一定の時間を設定して、その時間内に各問題を解く実践的な練習を行うことで、制限時間内に全問題が解けるような身体感覚を身につけることができる。</p> <p>5 多読によって簡単な物語や身近なことに関する英文を和訳せずに早く読むことができる(直読直解)。</p>				
学修成果評価項目(%)および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	70%	まとめのテスト、小テスト		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	20%	課題提出(テキストの演習問題、多読)		
	論理性	10%	演習問題		
	国際性	%			
	協調性	%			
	創造力	%			
	責任感	%			
授業の展開					
1.	ガイダンス(授業の進め方など)				
2.	TOEIC Bridgeに挑戦、課題提出(テキストUnit1-2、多読)				
3.	演習問題①、テキストUnit1-2の解説、小テスト、課題提出(テキストUnit3-4、多読)				
4.	演習問題②、テキストUnit3-4の解説、小テスト、課題提出(テキストUnit5-6、多読)				

5.	演習問題③、テキストUnit5-6の解説、小テスト、課題提出(テキストUnit7-8、多読)				
6.	演習問題④、テキストUnit7-8の解説、小テスト、課題提出(テキストUnit9-10、多読)				
7.	演習問題⑤、テキストUnit9-10の解説、小テスト、課題提出(テキストUnit11-12、多読)				
8.	演習問題⑥、テキストUnit11-12の解説、小テスト、課題提出(テキストUnit13-14、多読)				
9.	演習問題⑦、テキストUnit13-14の解説、小テスト、課題提出(多読)				
10.	実践問題: Listening(全パート)、課題提出(多読)				
11.	実践問題: Reading(Part 5&6)、課題提出(多読)				
12.	実践問題: Reading(Part 7)、課題提出(多読)				
13.	まとめ①: ビジネスシーンのテスト				
14.	まとめ②: Listening Section テスト				
15.	まとめ②: Reading Section テスト				
授 業 外 学 修 に つ い て	<p>授業外学習は、以下の項目に毎週少なくとも4時間程度あてることが望ましい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 テキストの練習問題(1週間に2Units)</li> <li>2 多読の課題(1週間に2500語以上)</li> <li>3 実践問題の復習</li> </ol>				
教 科 書	松本恵美子他『語彙で高めるTOEIC L& R Test スコアアップ600点』(成美堂)				
参 考 文 献	特になし。				
試 験 等 の 実 施	定期試験	その他の テスト	課題・ レポート	発表・プレゼン テーション	取組状況等
	○	○	○	×	○
成績評価の割合	60%	10%	20%	0%	10%
成績評価の基準	<p>本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。</p> <p>秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69点~60点)、不可(59点~0点)</p>				
試験等の実施、 成績評価の基準に 関する補足事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価や授業の進め方、辞書の携帯等に関しては、ガイダンス時に詳細に説明するので、履修希望者は必ず出席すること。</li> <li>・授業は「対面授業」のスタイルで行う。また、実際の授業にあたって上記の授業内容に変更が生じる場合があるかもしれないことを予め了承のこと。変更が生じる場合は、ガイダンス時または授業時に連絡する。</li> </ul>				

(時事英語)

科 目 名	語学研修 I				
配 当 学 年	1年	必修・選択	選択	CAP制	対象外
授 業 の 種 類	実習	単位数	1単位	授業回数	15
授 業 担 当 者	山下 文、磯部 靖世		単位認定責任者	山下 文	
実務経験の有無					
実務経験のある教員名および授業の関連内容					
授業科目の概要	<p>学生の国際性を涵養することをめざした、研修プログラムである。長期休暇期間に参加可能な2週間～2ヶ月程度のプログラムを担当教員が紹介する(対象国:カナダ・オーストラリア・台湾、対象言語:英語・中国語)。渡航前・渡航後には本学で事前研修と事後研修を実施する。これらを通じて、学生自らが語学学習の目的意識や、異文化・他者への理解を高め、語学学習・海外渡航を自らのキャリア形成に生かすことを目的としている。</p> <p>語学研修 I (夏渡航): 現地研修時間が30時間以上75時間未満、1単位  語学研修 II (夏渡航): 現地研修時間が75時間以上、2単位</p> <p>在学期間を通して、「語学研修 I (春)」「語学研修 I (秋)」「語学研修 II (春)」「語学研修 II (秋)」のいずれかしか単位認定されない。</p>				
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 渡航先での生活および研修機関での語学学習について、具体的な達成目標を設定することができる。</li> <li>2. 達成目標に基づいて、渡航先での自律した生活を送り、語学学習を遂行することができる。</li> <li>3. 渡航先での語学学習の生活を元に、新たな語学学習の目的・方策を講じることができる</li> <li>4. 渡航先での学びを客観的に振り返り、自らのキャリア形成に生かすことができる。</li> <li>5. 自らの渡航先での経験を活かして、将来的に渡航を考える学生をサポートすることができる。</li> </ol>				
学修成果評価項目 (%) および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	%			
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	30%	レポート提出(成果報告書 10)、取り組み状況(グループワーク 10)、プレゼンテーション(10)		
	論理性	%			
	国際性	30%	レポート提出(成果報告書 20)、取り組み状況(グループワーク 10)		
	協調性	10%	取り組み状況(グループワーク 10)		
	創造力	%			
	責任感	30%	レポート提出(成果報告書 10)、プレゼンテーション(20)		
授業の展開					
1.	ガイダンス 海外渡航の目的意識を持つ				
2.	事前研修① 研修中の生活をイメージする				
3.	事前研修② 研修計画を立てる				
4.	事前研修③ 異文化を理解する、危機管理				
5.	現地研修① 渡航先の研修機関における語学授業・文化授業				
6.	現地研修② 渡航先の研修機関における語学授業・文化授業				
7.	現地研修③ 渡航先の研修機関における語学授業・文化授業				

8.	現地研修④ 渡航先の研修機関における語学授業・文化授業				
9.	現地研修⑤ 渡航先の研修機関における語学授業・文化授業				
10.	現地研修⑥ 渡航先の研修機関における語学授業・文化授業				
11.	現地研修⑦ 渡航先の研修機関における語学授業・文化授業				
12.	事後研修① 研修経験を研修計画と比較し振り返る				
13.	事後研修② 研修経験を自らのキャリア形成に生かす				
14.	プレゼンテーション発表の準備				
15.	プレゼンテーション				
授 業 外 学 修 に つ い て	事前研修・事後研修は授業外学修の内容に基づき行われる。現地研修期間中は、受け入れ機関の指示に従って、授業外学修を行うこと。				
教 科 書	高濱愛・田中共子『1人でできる留学準備・活用ノート』三修社、2024年11月。 現地研修においては、受け入れ機関から指定された教科書・テキストを使用する				
参 考 文 献					
試 験 等 の 実 施	定期試験	その他の テスト	課題・ レポート	発表・プレゼン テーション	取組状況等
	×	×	○	○	○
成績評価の割合	%	%	40%	30%	30%
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69点～60点)、不可(59点～0点)				
試験等の実施、 成績評価の基準に 関する補足事項	渡航先によっては、渡航前に語学検定・試験の受験が必要になる場合がある。 現地研修は2026年度夏期休暇中に実施されるが、単位認定は秋学期になる。2026年度秋学期中に休学・退学などの学籍移動をおこなった場合は、単位は認定されない。				

(語学研修 I)

科 目 名	語学研修Ⅱ				
配 当 学 年	1年	必修・選択	選択	CAP制	対象外
授 業 の 種 類	実習	単位数	2単位	授業回数	15
授 業 担 当 者	山下 文、磯部 靖世		単位認定責任者	山下 文	
実務経験の有無					
実務経験のある教員名および授業の関連内容					
授業科目の概要	<p>学生の国際性を涵養することをめざした、研修プログラムである。長期休暇期間に参加可能な2週間～2ヶ月程度のプログラムを担当教員が紹介する(対象国:カナダ・オーストラリア・台湾、対象言語:英語・中国語)。渡航前・渡航後には本学で事前研修と事後研修を実施する。これらを通じて、学生自らが語学学習の目的意識や、異文化・他者への理解を高め、語学学習・海外渡航を自らのキャリア形成に生かすことを目的としている。</p> <p>語学研修Ⅰ(夏渡航):現地研修時間が30時間以上75時間未満、1単位  語学研修Ⅱ(夏渡航):現地研修時間が75時間以上、2単位</p> <p>在学期間を通して、「語学研修Ⅰ(春)」「語学研修Ⅰ(秋)」「語学研修Ⅱ(春)」「語学研修Ⅱ(秋)」のいずれかしか単位認定されない。</p>				
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 渡航先での生活および研修機関での語学学習について、具体的な達成目標を設定することができる。</li> <li>2. 達成目標に基づいて、渡航先での自律した生活を送り、語学学習を遂行することができる。</li> <li>3. 渡航先での語学学習の生活を元に、新たな語学学習の目的・方策を講じることができる</li> <li>4. 渡航先での学びを客観的に振り返り、自らのキャリア形成に生かすことができる。</li> <li>5. 自らの渡航先での経験を活かして、将来的に渡航を考える学生をサポートすることができる。</li> </ol>				
学修成果評価項目(%)および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	%			
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	30%	レポート提出(成果報告書10)、取り組み状況(グループワーク10)、プレゼンテーション(10)		
	論理性	%			
	国際性	30%	レポート提出(成果報告書20)、取り組み状況(グループワーク10)		
	協調性	10%	取り組み状況(グループワーク10)		
	創造力	%			
	責任感	30%	レポート提出(成果報告書10)、プレゼンテーション(20)		
授業の展開					
1.	ガイダンス 海外渡航の目的意識を持つ				
2.	事前研修① 研修中の生活をイメージする				
3.	事前研修② 研修計画を立てる				
4.	事前研修③ 異文化を理解する、危機管理				
5.	現地研修① 渡航先の研修機関における語学授業・文化授業				
6.	現地研修② 渡航先の研修機関における語学授業・文化授業				
7.	現地研修③ 渡航先の研修機関における語学授業・文化授業				

8.	現地研修④ 渡航先の研修機関における語学授業・文化授業				
9.	現地研修⑤ 渡航先の研修機関における語学授業・文化授業				
10.	現地研修⑥ 渡航先の研修機関における語学授業・文化授業				
11.	現地研修⑦ 渡航先の研修機関における語学授業・文化授業				
12.	事後研修① 研修経験を研修計画と比較し振り返る				
13.	事後研修② 研修経験を自らのキャリア形成に生かす				
14.	プレゼンテーション発表の準備				
15.	プレゼンテーション				
授 業 外 学 修 に つ い て	事前研修・事後研修は授業外学修の内容に基づき行われる。現地研修期間中は、受け入れ機関の指示に従って、授業外学修を行うこと。				
教 科 書	高濱愛・田中共子『1人でできる留学準備・活用ノート』三修社、2024年11月。 現地研修においては、受け入れ機関から指定された教科書・テキストを使用する				
参 考 文 献					
試 験 等 の 実 施	定期試験	その他の テスト	課題・ レポート	発表・プレゼン テーション	取組状況等
	×	×	○	○	○
成績評価の割合	%	%	40%	30%	30%
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69点～60点)、不可(59点～0点)				
試験等の実施、 成績評価の基準に 関する補足事項	渡航先によっては、渡航前に語学検定・試験の受験が必要になる場合がある。 現地研修は2026年度夏期休暇中に実施されるが、単位認定は秋学期になる。2026年度秋学期中に休学・退学などの学籍移動をおこなった場合は、単位は認定されない。				

(語学研修Ⅱ)

科 目 名	スポーツ総合1				
配 当 学 年	1年	必修・選択	選択	CAP制	対象外
授 業 の 種 類	実習	単位数	1単位	授業回数	15
授 業 担 当 者	内藤 貴司(非常勤講師)、今野 靖政(非常勤講師)		単位認定責任者	内藤 貴司	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容	-				
授業科目の概要	入学時のアイスブレイキングの導入と、体力診断テストとバレーボール、バスケットボールの3種目についてゲームを中心に展開する。受講者数に応じて内容をカスタマイズすることがある。授業の進行状況によって、課題(レポート)を課す場合があります。				
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 受講者が自主的・主体的にそれぞれの運動種目について取り組むことができる。</li> <li>2. チームメイトとコミュニケーションができる。</li> <li>3. 受講者がそれぞれの運動種目における基本練習について、内容把握ができる。</li> <li>4. それぞれの競技種目のルールを理解し、ゲーム管理ができる。</li> <li>5. 体力レベルの劣る受講者への配慮と協力ができる。</li> </ol>				
学修成果評価項目(%)および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	%			
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	60%	取組状況等		
	論理性	%			
	国際性	%			
	協調性	30%	取組状況等		
	創造力	%			
	責任感	10%	取組状況等		
授業の展開					
1.	ガイダンス: 受講上の注意と評価方法について				
2.	体力診断テスト I				
3.	バレーボール: パスドリル、チーム編成と簡易ゲーム				
4.	バレーボール: レシーブ、サーブ&レシーブ、リーグ戦				
5.	バレーボール: トスからスパイク、レシーブフォーメーション、リーグ戦				
6.	バレーボール: クイック・ブロックフォーメーション、リーグ戦				
7.	バスケットボール: パス、ドリブル、シュートの基本、ミニゲーム、3×3ゲーム				
8.	バスケットボール: オフェンスの種類と動きの解説、ゲーム				
9.	バスケットボール: ディフェンスの技術解説、ポジション確認、ゲームリーグ戦				
10.	バスケットボール: 戦術確認、ゲームリーグ戦				
11.	ソフトボール: キャッチボール、発展キャッチボール、チーム編成と簡易ゲーム				
12.	ソフトボール: ピッチング(スリングショット・ウインドミル投法等の挑戦)、チーム編成と簡易ゲーム				
13.	ソフトボール: シートノック(内野中心)、チーム編成、リーグ戦				

14.	ソフトボール： 発展シートノック、チーム編成、リーグ戦				
15.	体力診断テストⅡ、まとめ				
授 業 外 学 修 に つ い て	<p>本授業における到達目標を各自で設定すること。</p> <p>例えば</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ストレッチングの手順と種類を用意しておく。</li> <li>・基礎技術練習を考えておく。</li> <li>・選択種目のルールを確認しておく。</li> <li>・ゲーム評価を含め、前回の授業内容を整理しておく。</li> </ul> <p>* 授業開始前、終了後の体力づくり、トレーニング、健康関係の質問、相談に対処する。</p>				
教 科 書	使用しない。				
参 考 文 献	資料等は適宜配布する。				
試 験 等 の 実 施	定期試験	その他の テスト	課題・ レポート	発表・プレゼン テーション	取組状況等
	×	×	×	×	○
成績評価の割合	0%	0%	0%	0%	100%
成績評価の基準	<p>本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。</p> <p>秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69点～60点)、不可(59点～0点)</p>				
試験等の実施、 成績評価の基準に 関する補足事項					

(スポーツ総合1)

科 目 名	健康科学				
配 当 学 年	1年	必修・選択	選択	CAP制	対象
授 業 の 種 類	講義	単位数	1単位	授業回数	8
授 業 担 当 者	内藤 貴司(非常勤講師)		単位認定責任者	内藤 貴司	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容					
授業科目の概要	我が国の科学技術や交通機関の日進月歩の発達は、国民の生活環境に大きな変化をもたらし、我々の生活をより快適で便利なものへと変化させてきました。その恩恵の反面、慢性的な運動不足による生活習慣病やストレスの増大等、我々国民の様々な健康問題を誘発するといった弊害を招いています。一方で、近年の競技スポーツはスポーツ科学の発展によって競技力が国内外問わず大きく進歩しています。本講義では、現代人が抱える健康問題を健康科学・スポーツ科学の観点から科学的根拠（学術論文）に基づいて概説します。加えて、最新の知見を紹介し、今後の自身の健康行動やスポーツ活動に活かせるように解説します。				
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会の健康問題を認識し、健康観を意識することができる</li> <li>2. 健康障害と生活習慣の関連を認識し、運動の必要性を意識することができる</li> <li>3. 基本的な身体解剖学・生理学・栄養学の知識を身につけることができる</li> <li>4. 学修した知識を活かして、健康増進に必要な方策を設計できる</li> <li>5. 学修した知識を活かして、スポーツ競技力向上に必要な方策を設計できる</li> </ol>				
学修成果評価項目(%)および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	20%	小テスト		
	専門知識	50%	小テスト、レポート		
	倫理観	%			
	主体性	%			
	論理性	30%	レポート		
	国際性	%			
	協調性	%			
	創造力	%			
	責任感	%			
授業の展開					
1.	ガイダンス(授業の進め方)、健康観				
2.	生活習慣病				
3.	メンタルヘルス、目標設定				
4.	運動と睡眠				
5.	身体組成、PFC、水分補給				
6.	運動と免疫、レポートの課題・作成方法				
7.	運動と体力、トレーニング				
8.	発育発達加齢				
9.					
10.					

11.											
12.											
13.											
14.											
15.											
授 業 外 学 修 に つ い て	前回授業内容に係る小テストを実施するので、復習をしておくこと										
教 科 書	なし、資料を配布する。										
参 考 文 献	「実習で学ぶ健康・運動・スポーツの科学」九州大学健康科学センター編 大修館書店 2011 「NSCA決定版(第3版)ストレングストレーニング&コンディショニング」日本語版総監訳 金久博明 ブックハウスHD 2015 「スポーツ栄養学 科学の基礎からなぜ?にこたえる」寺田新 東京大学出版会 2017 「2020年版スポーツ栄養学最新理論」寺田新編著 市村出版 2020 「スポーツ現場における暑さ対策 スポーツの安全とパフォーマンス向上のために」長谷川博・中 村大輔編著 2021										
試 験 等 の 実 施	<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>その他の テスト</th> <th>課題・ レポート</th> <th>発表・プレゼン テーション</th> <th>取組状況等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	その他の テスト	課題・ レポート	発表・プレゼン テーション	取組状況等	×	○	○	×	×
定期試験	その他の テスト	課題・ レポート	発表・プレゼン テーション	取組状況等							
×	○	○	×	×							
成績評価の割合	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>60%</td> <td>40%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	0%	60%	40%	0%	0%					
0%	60%	40%	0%	0%							
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69点~60点)、不可(59点~0点)										
試験等の実施、 成績評価の基準に 関する補足事項	この講義は全8回です。										

(健康科学)

科 目 名	スポーツ総合2				
配 当 学 年	1年	必修・選択	選択	CAP制	対象外
授 業 の 種 類	実習	単位数	1単位	授業回数	15
授 業 担 当 者	内藤 貴司(非常勤講師)、今野 靖政(非常勤講師)		単位認定責任者	内藤 貴司	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容	-				
授業科目の概要	クラスの意識を持たせるためにチームゲーム、団体戦方式でミニバレー、ラケットテニス、卓球の3種目を展開し、フィットネステスト(新体力テスト)では、現状における個々人の体力確認をする。受講者数に応じて内容をカスタマイズすることがある。授業の進行状況によって、課題(レポート)を課す場合があります。				
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 受講者が自主的・主体的にそれぞれの運動種目についての取り組むことができる。</li> <li>2. チームメイトとコミュニケーションができる。</li> <li>3. 受講者がそれぞれの運動種目における基本練習について、内容把握ができる。</li> <li>4. それぞれの競技種目のルールを理解し、ゲーム管理ができる。</li> <li>5. 体力レベルの劣る受講者への配慮と協力ができる。</li> </ol>				
学修成果評価項目(%)および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	%			
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	60%	取組状況等		
	論理性	%			
	国際性	%			
	協調性	30%	取組状況等		
	創造力	%			
責任感	10%	取組状況等			
授業の展開					
1.	ガイダンス:受講上の注意と評価方法について				
2.	フィットネステスト I				
3.	ミニバレーボール:パストリル、チーム編成と簡易ゲーム				
4.	ミニバレーボール:サーブ&レシーブ、リーグ戦				
5.	ミニバレーボール:スパイク、ブロック、レシーブフォーメーション、リーグ戦				
6.	ミニバレーボール:クイック・ブロックフォーメーション、リーグ戦				
7.	バドミントン:クリア、ドロップ、ヘアピン等のショットスキルの習得、2人組ラリー、簡易ゲーム				
8.	バドミントン:スマッシュ、ドロップの使い分け、シングルスリーグ戦				
9.	バドミントン:応用ストローク、ブロック別のダブルスローテーションゲーム				
10.	バドミントン:ストロークの完成、参加者全員によるダブルスローテーションリーグ戦				
11.	卓球:サービス&フォアハンドストローク、シングルスゲーム				
12.	卓球:バックハンドストローク、1対1のラリー、シングルスゲーム				

13.	卓球:ショート打法とスマッシュ、ダブルスゲーム				
14.	卓球:ドライブ&カット打法、ダブルスゲーム				
15.	フィットネステストⅡ、まとめ				
授業外学修について	<p>本授業における到達目標を各自で設定すること。</p> <p>例えば</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ストレッチングの手順と種類を用意しておく。</li> <li>・基礎技術練習を考えておく。</li> <li>・選択種目のルールを確認しておく。</li> <li>・ゲーム評価を含め、前回の授業内容を整理しておく。</li> </ul> <p>* 授業開始前、終了後の体力づくり、トレーニング、健康関係の質問、相談に対処する。</p>				
教科書	使用しない。				
参考文献	資料等は適宜配布する。				
試験等の実施	定期試験	その他のテスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	取組状況等
	×	×	×	×	○
成績評価の割合	0%	0%	0%	0%	100%
成績評価の基準	<p>本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。</p> <p>秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69点~60点)、不可(59点~0点)</p>				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項					

(スポーツ総合2)